

第2章 律令国家の形成 c. 藤原氏と政界の動揺(教p41~44 図53)

図録P53<1>の表を見て、次の表の1~22に適語を入れよ。

天皇	藤原氏	皇族他氏	
文武 元明 元正	1 不比等		701 [2 大宝律令] 制定
			710 [3 平城京] 遷都
7 聖武	四子 (武智麻呂・房前・宇合・麻呂)	4 長屋王	723 [5 三世一身] の法制定
			729 [6 長屋王] の乱 [8 光明子] 立后
			737 四子、相次いで病死
12 孝謙	光明皇 (太)后	9 橘諸兄 玄昉	740 藤原[10 広嗣] の乱 天皇、あいつぐ[11 遷都]
		13 吉備真備	743 [14 壱田永年私財] 法 大仏造立の詔
17 淳仁	15 仲麻呂 (惠美押勝)		757 [16 橘奈良麻呂] の乱 764 [18 惠美押勝] の乱
称徳 (孝謙)		19 道鏡	769 [20 宇佐八幡神託] 事件
21 光仁	百川 永手		770 [22 道鏡] を追放

①8世紀前期 [23 藤原不比等] の政権=大宝律令の制定、藤原氏興隆の基礎をつくる

②720~ [24 長屋王] の政権…律令体制の行き詰まり→25 三世一身 の法制定など

③藤原四子(武智麻呂・房前・宇合・麻呂)の政界進出→[26 長屋王] の変(729)で政権を奪う
27 皇親 政治の終り=藤原氏の[28 光明子] を皇后に→737 29 疫病で全員病死

④738~ [30 橘諸兄] の政権(吉備真備、玄昉の補佐)
光明子の義理の兄 留学生・僧
→[31 藤原広嗣] の乱(740)発生→以後、政界の混乱につづ

⑤[32 聖武] 天皇の政治…疫病・凶作など相次ぐ
→740年以降[33 恭仁] 宮・[34 紫香楽] 宮・難波宮と遷都をくりかえす。→745年平城京へ戻る

→741年[35 国分寺建立] の詔・743年[36 大仏造立] の詔を出す
→752年東大寺の本尊として完成
→743年[37 壱田永年私財法] をだし、38 公地公民 の原則を破棄
749年[39 孝謙] 天皇(女性天皇)に譲位

⑥749~[40 藤原仲麻呂] の政権(←光明皇太后の支援を受ける)
諸兄の引退(756)、[41 橘奈良麻呂] の乱(757)鎮圧
[42 淳仁] 天皇を即位させる

⑦764~[43 道鏡] の政権=孝謙(称徳)天皇の寵愛が背景
→764[44 惠美押勝] の乱で藤原仲麻呂を破る。淳仁天皇廃位→淡路に流される
→称徳天皇、天皇の地位を道鏡に譲ろうとする([45 宇佐八幡神託] 事件)
→天皇の死によって没落

⑧770~藤原一族の台頭=[46 光仁] 天皇擁立→桓武天皇、長岡京・平安京へ遷都
天智天皇の孫

8世紀の初めは、[47 藤原不比等] を中心に律令制度の確立がはかられた。不比等は娘の宮子を文武天皇に嫁がせて、その子の皇太子(のち[48 聖武] 天皇)にも娘の[49 光明子] を嫁がせて天皇家と密接な関係をきずいた。

不比等が死去すると、皇族の[50 長屋王] が右大臣となり政権をにぎったが、不比等の子の4兄弟は策謀をめぐらせ、729年[51 長屋王] を自殺させ[52 光明子] を皇后に立てた。しかし天然痘によって4兄弟はあいついで病死、藤原氏の勢力は一時後退した。

かわって政権の中心となったのは、皇族出身の[53 橘諸兄] であり、唐から帰国した[54 吉備真備] や玄昉とともに活躍、これに反発した[55 藤原広嗣] が740年、九州で大規模な反乱をおこした。これ以後、聖武天皇は恭仁・難波・[56 紫香楽] などに都を転々と移した。

こうした政治情勢や飢饉・疫病などの社会的不安のもと、仏教をあつく信仰した聖武天皇は、仏教の持つ[57 鎮護国家] の思想によって国家の安定をはかろうとし、741年に[58 国分寺建立] の詔を、743年には近江の紫香楽宮で[59 大仏造立] の詔を出した。745年都が平城京に戻ると大仏造立は奈良で続けられ、752年、聖武天皇の娘である[60 孝謙] 天皇のもとで大仏の開眼供養の儀式が盛大におこなわれた。

孝謙天皇の時代には、[61 藤原仲麻呂] が[62 光明皇太后] と結んで勢力をのばした。これに反発した橘諸兄の子の[63 橘奈良麻呂] が反乱を起こした。仲麻呂は[64 惠美押勝] の名を得て権力を独占、[65 淳仁] 天皇を擁立して即位させた。しかし[66 光明皇太后] が死去すると孤立、[67 孝謙] 太上天皇の寵愛を受けた僧[68 弓削道鏡] が力を伸ばすと、764年挙兵したが、太上天皇側に滅ぼされた([69 惠美押勝] の乱)。淳仁天皇は廃され、孝謙太上天皇が重祚して[70 称徳] 天皇となった。

道鏡は天皇の支持を得て太政大臣・僧師、さらに法王となって権力をにぎった。769年には、称徳天皇が[71 宇佐八幡宮] の神託として道鏡に皇位を譲ろうとしたが、[72 和氣清麻呂] の行動で挫折した。称徳天皇が死去すると、[73 道鏡] は没落、天智天皇の孫である[74 光仁] 天皇がむかえられ、混乱した律令政治と国家財政の再建がめざされた。